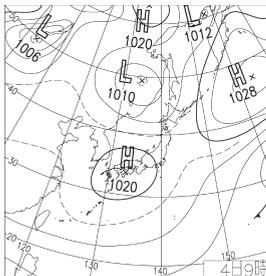


日々の天気図

— No. 46

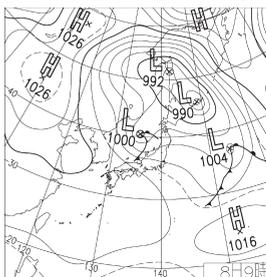
2005年11月

- ・6日、低気圧が本州南岸を通過し、静岡県南伊豆町石廊崎で92 mm/1 h.
- ・8日、低気圧が通過し、北日本で突風。北海道浦河町36.2 m/s.
- ・22日、発達した低気圧の影響で北海道で突風。37.6 m/s.
- ・26日、冬型気圧配置により北海道幌加内町朱鞠内42 cm/24 h.
(気象庁予報部予報課)



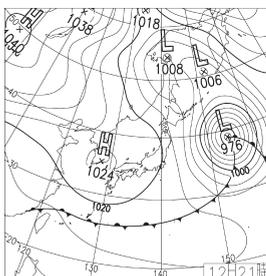
4日(金)穏やかな1日

移動性高気圧に覆われ、北陸や北日本の一部を除いて全国的に晴れや曇り。気温も北海道、西日本の一部、南西諸島を除いて10月中旬並み。北海道は連日10月上旬並みの暖かさ。



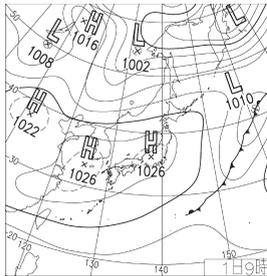
8日(火)黄砂観測地域 拡大

低気圧や前線の影響で北日本や北陸は晴れ後曇りや雨。その他は概ね晴れ。北海道浦河町で最大瞬間風速36.2 m/s。黄砂は、前日の西日本から東海と沖縄県南大東島まで拡がる。



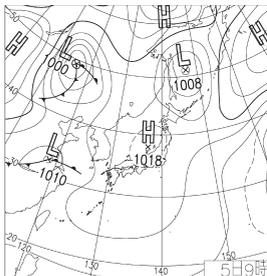
12日(土)東京で木枯らし1号

低気圧が東海上で発達。日本付近は冬型の気圧配置となり、午後、東京では北西の風22.0 m/sの最大瞬間風速を観測し、木枯らし1号となった。東京都三宅村で66 mm/1 hの雨。



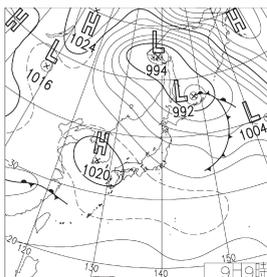
1日(火)ほぼ全国的に晴れ

移動性高気圧に覆われ、夜間晴れたための放射冷却現象により、全国的に冷え、11月下旬頃の気温のところも。最低気温は長野県開田村で-5.6°C、東京大手町は10.9°C。



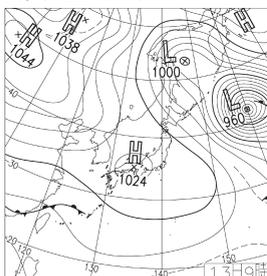
5日(土)移動性高気圧覆う

本州に中心を持つ高気圧に覆われ、前日に続き全国的にほぼ晴れ。気温も全国的に高めで10月上旬から中旬並。九州は大陸からのびる前線の影響で夕方から雨。



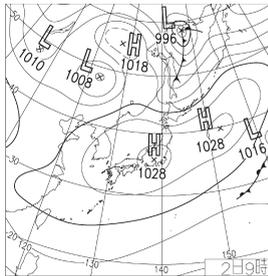
9日(水)北日本中心の冬型

北日本日本海側では雪や雨。その他は曇りや晴れ。札幌上空5,300 m付近で-33°Cの寒気が流入。北日本各地から平年より1週間以上遅れて初雪、初冠雪の便り。



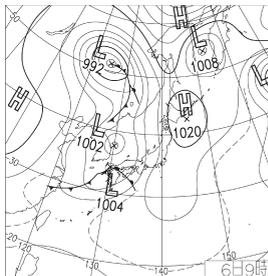
13日(日)初霜・初氷 関東へ

北陸や北日本は冬型で曇りや雨、北海道は雪の所も。南西諸島は前線が停滞し所々雨。その他は概ね晴れ。沖縄県国頭村で52.5 mm/1 h。宇都宮市、熊谷市で初霜。水戸市で初氷。



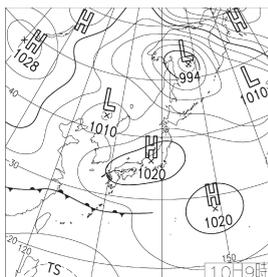
2日(水)東日本爽やかな秋晴れ

四国と本州の日本海側、北海道で雨か曇りの他は晴れ。東日本を中心に11月中旬並みの冷え込みとなり。長野県松本市で初氷と初霜を観測。台風第21号はトンキン湾で熱低化。



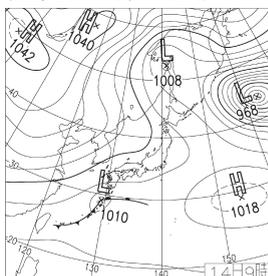
6日(日)低気圧東進

瀬戸内海を通り太平洋側へ。西日本は朝から雨で、関東など東日本も午後から雨となり、夜は北日本でも雨。静岡県南伊豆町石廊崎で92 mm/1 h.



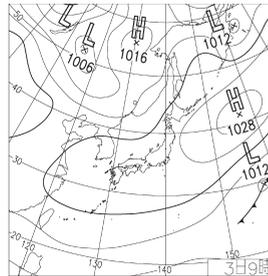
10日(木)台風第22号発生

移動性高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れ。太平洋側は高気圧の南縁で上層の雲がかかる。甲府市で初霜観測。09時フィリピンの東で台風第22号が発生、21時に熱帯低気圧に。



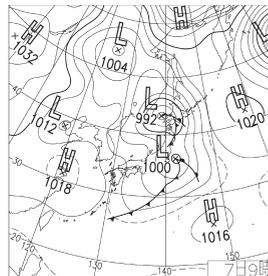
14日(月)北日本の冬型続く

北日本は雪や雨。一方、東シナ海から日本の南へ低気圧が東進。九州南部や南西諸島で朝のうちを中心に雨。その他は曇り。



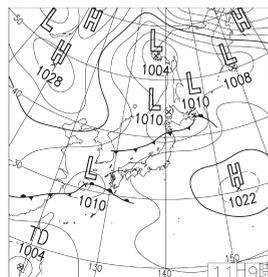
3日(木)晴れの特異日文化の日

北日本や西日本では晴れ間もだが、上空の気圧の谷の影響でほぼ全国的に曇り、所々で雨。北海道岩見沢市でヤマモミジが紅葉。



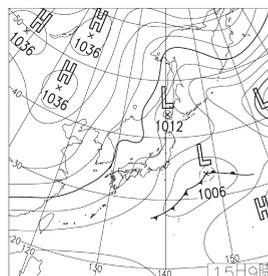
7日(月)立冬で夏日

南西諸島、西日本、北陸を除く東日本は晴れ。北陸と北日本は雨や曇り。南西諸島から近畿にかけて黄砂を観測。北海道の一部では9月下旬並みの気温。静岡市で25.9°Cの夏日。



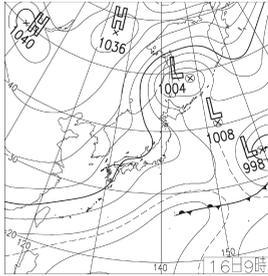
11日(金)低気圧接近

南岸の前線の雲が次第に北上し関東以西は5日ぶりに曇り。東シナ海の低気圧や前線が近づき、西日本は雨。北日本も別の前線の影響で所々で雨。



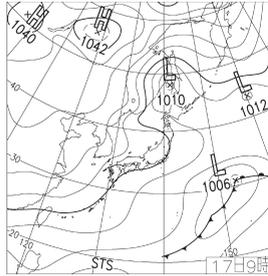
15日(火)津波観測

北日本中心に弱い冬型。関東の南海上を低気圧東進。日本海側は雨や雪。鳥取市鹿野で81 mm/日。関東の一部で雨。三陸沖でM7.1の地震。岩手県大船渡市で0.5 mの津波を観測。



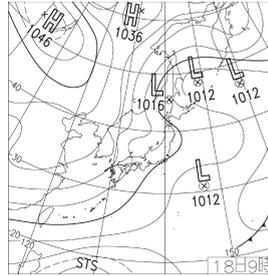
16日(水) 冬型の気圧配置

日本海側は雪や雨,太平洋側は晴れ。北海道倶知安町で21時までに22cm/24hの降雪。全国的に気温が平年よりやや低い。15時フィリピンの東で台風第23号発生。



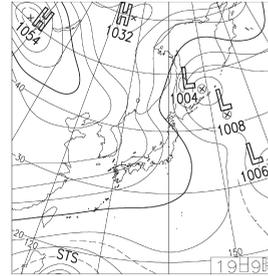
17日(木) 各地から冬の便り

日本列島は連日寒さが続き、概ね11月下旬から12月上旬の寒さ。和歌山市では平年より46日早く初霜、長野市で初雪、前橋市で初霜、初水を観測する等各地から冬の便りが届いた。



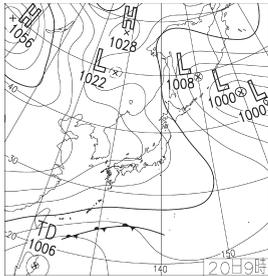
18日(金) 冬型の気圧配置続く

北日本及び東・西日本の日本海側では曇りや雨、北海道では雪の所も。その他は概ね晴れ。熊谷市で平年より3日早く初水、福島県いわき市小名浜では平年より7日遅く初霜。



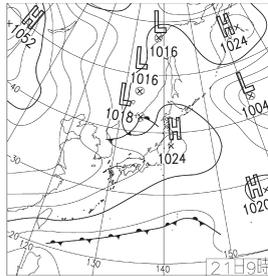
19日(土) 伊吹山 初冠雪

冬型が続き、北海道は雨や雪、東北～西日本の日本海側では曇りや雨、その他は概ね晴れ。山形市で初霜、滋賀県伊吹山、青森県階上岳で初冠雪。



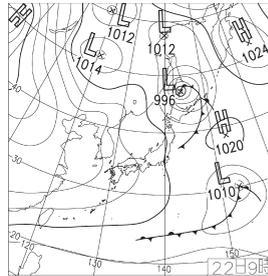
20日(日) 冬型の気圧配置緩む

数日続いた冬型は北日本中心に、南西諸島の南に停滞前線が発生。中国地方から北の日本海側は雨や雪、南西諸島は曇り。その他は晴れまたは曇り。岩手県大船渡市で初雪。



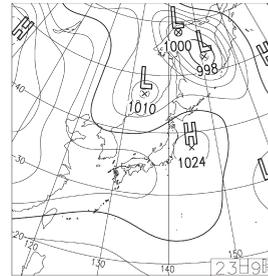
21日(月) 移動性高気圧通過

北陸以北は上空5,500m付近で-30℃以下の寒気が入り、朝は全国的に12月中～下旬の冷え込み。北日本と北陸は日本海の低気圧と前線の接近で午後から所々雨。



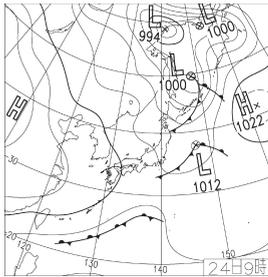
22日(火) 北日本に新たな寒気

稚内上空5,200m付近で-37℃以下。日中は全国的にほぼ平年並みの気温。発達した低気圧の影響により北海道稚内市で最大瞬間風速、西北西37.6m/s。



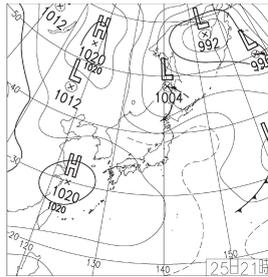
23日(水) 北日本 冬型

北日本の日本海側と北陸は寒気の影響で曇りや雨一部で雪。沖縄も近海で前線が明瞭化し曇りや雨。その他は概ね晴れ。日中の気温は各地11月中旬～下旬並。



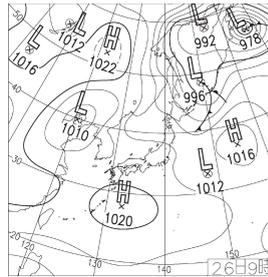
24日(木) 寒気 緩む

オホーツク海の低気圧から伸びる前線が北日本を通過。通過後も寒気の流れは弱く、北陸や北日本の日本海側は所々で雨や雪が降る程度でほとんどは曇り。その他の地方は晴れ。



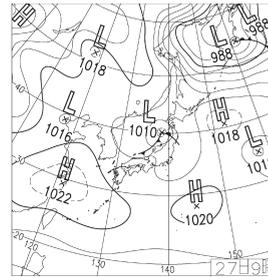
25日(金) 北日本 寒冷前線通過

西・東日本は高気圧に覆われ晴れまたは曇り。北日本は夜にかけ寒冷前線が通過。北陸や北海道の一部で雨や雪が一時強く降る。東京で平年より6日遅くイロハカエダが紅葉。



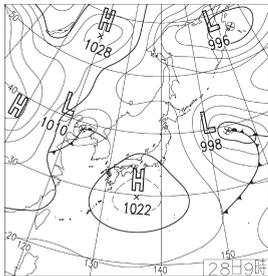
26日(土) 北日本中心の冬型

北日本の日本海側や北陸は昨夜から雨や雪が続き、北海道幌加内町朱鞠内で9時までに42cm/24hの降雪。午後は日本の南の高気圧に覆われほぼ全国的に晴れ。



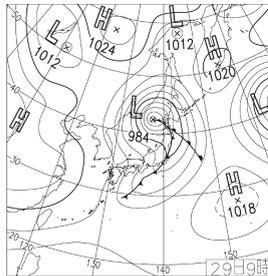
27日(日) 東北、北陸で雷

低気圧の影響で、北海道は雨や雪、東北、北陸は雨で一部で雷。西日本は午前中、雨や曇り。その他は晴れ。日中の気温は北海道を除いて全国的に11月上旬～中旬の暖かさ。



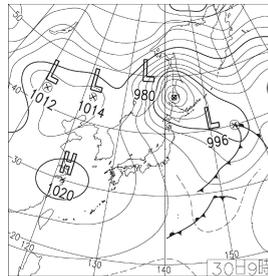
28日(月) 西・東日本 小春日和

午前中、東北、北陸は曇りや雨。西日本、東日本は概ね晴れて、気温は11月上旬～中旬の暖かさ。甲府市でイロハカエダが紅葉。北海道歌登町で朝の最低気温-13.5℃。



29日(火) 低気圧猛烈に発達

北海道の西海上で猛烈に発達。北日本中心に暴風雨。北海道苫小牧市で最大瞬間風速33.6m/s、有珠郡大滝村で98.5mm/日。関東中心に10月中旬～下旬の暖かさ。



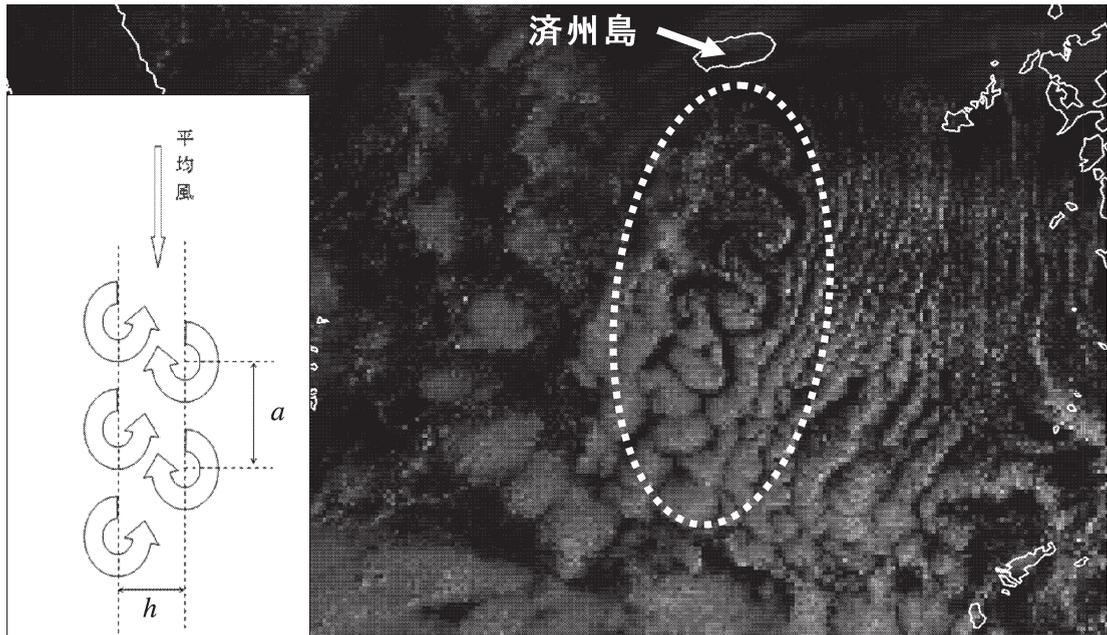
30日(水) 九州で冷え込む

冬型の気圧配置。山陰から北の日本海側は雨や雪、その他は晴れ。寒気は西日本に南下、晴れた九州は放射冷却で冷え込む。熊本市で平年より15日遅く初霜。



今月のひまわり画像—2005年11月

済州島の風下に発生したカルマン渦



2005年11月18日09時の可視画像

水や空気などの流体中に円柱を置くと、円柱後面の流れの下流側に2列の渦が規則正しく並ぶことがある。この現象はカルマン渦、あるいはカルマン渦列と呼ばれており、渦列の間隔(h)と同じ渦列内の渦の間隔(a)との比は $0.28 < h/a < 0.52$ になるという(Chopra, Hubert 1965)。

11月17日は西高東低の冬型気圧配置で、日本周辺は寒気の吹き出しによる筋状の対流雲が見られ、東シナ海付近では北風が吹いていた。その後低気圧は東進して、翌日18日にかけて次第に冬型の気圧配置は緩んでいった。

写真は11月18日09時の可視画像である。風向に沿って雲頂高度の低い筋状の雲域があり、写真下方では層

状化している。一方、済州島の風下では渦状の特徴的な雲域を確認することができる。これがカルマン渦であり、朝の6時頃から10時頃まで持続し、この冬初めての発生となった。画像から h/a はおおよそ0.5程度である。

このようなカルマン渦は孤立峰を持つ島があって、強い逆転層下にある層雲や層積雲に覆われた海域に見られることが多い。当日9時の済州島や那覇の高層観測では約1500メートル上空に逆転層があり、発生の条件が揃っていた。衛星画像では屋久島や利尻島などでもカルマン渦を見ることができる。

(気象衛星センター)